

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0196400055		
法人名	株式会社 陽光		
事業所名	グループホーム ひだまりの家		
所在地	留萌郡小平町字小平町432-9		
自己評価作成日	令和 元年 8月 21日	評価結果市町村受理日	令和元年10月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0196400055-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	令和元年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ①「此处で良かった」と思ってもらえるような介護・支援を目指します。
- ②ご本人の持てる能力の活用、利用者様それぞれの個性を活かせるような支援体制を心掛けております。
- ③隣接する特定施設との連携・交流等協力体制を強化しております。
- ④面会・外出・訪問・施設見学等は随時対応致します。
- ⑤利用者様の声に耳を傾け、可能な限り要望を受け止め、対応して行けるような支援を目指し進んでいきたいと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は小平町の中心部、役所や学校、幼稚園とも近隣関係で、町営の住宅も隣接している静かな住宅地に立地している。また海にも近く、山々にも恵まれた自然の豊富な環境下でもある。事業の開始は町の有識者であった社長が、有料の高齢者住居を経営していた実績を見込まれ平成22年に創立し、9人1ユニットのまま現在に至っている。建物は平屋建てで、居間も居室も広く明るくゆとり過ごせるように造られ、トイレも直接の出入りが見えないような配慮がなされ、一人ひとりがゆったりと寛げる造作となっている。隣接した有料老人ホームと各場面で協力し、同系列の強さを発揮している。当事業所の優秀な点は、職員の正規雇用が挙げられ、身分の保証が確かな介護の基本を掲げ、実践している事を特筆したい。次に地域との交流の確かさが挙げられる。町のお祭りには小さな緑日を敷地内で開いたり、避難先を近所のお寺にお願いするなど、地道な日常活動の結果として、認知症の啓蒙を含め、町民全体と密接な関係を構築している。また、9人1ユニットの良さを活かした親しみに溢れた介護も、利用者ひとり一人の笑顔を引き出し、明るさに満ちた事業所になっている事も、高く評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見ても、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見ても、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を制定し、ホール・休憩室・事務所に掲示し、皆で共有していけるよう心掛けサービスの提供に努めております。	「ゆっくりと、たのしく、やさしく」と簡易で明快な3つの理念を事務室や休憩室等に掲示し、利用者や家族、関係者に明示している。またマザーテレサの言葉も添えてあり、実践に活かせるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園児によるお遊戯・慰問による読み聞かせ・歌・太鼓・舞踊等の披露会の開催。お祭りの行列時にミニ縁日を開催し水分補給所を確保。推進会議のメンバーに、地域代表として地元消防署長様に参加して頂いております。	地域で介護事業を開始して10年以上が経過し、当事業所も開設9年目を迎え、地域交流も、ボランティアの受け入れや近所の幼稚園児の来訪、町のお祭りの神輿、縁日の開催等々と日常的に深まっており、住民と事業所と相互の交流が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学の随時受入、又推進会議等を活かし地域への発信を行う等対応しております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にて利用者様の状態・状況報告・入居状況等の報告をし、意見を頂いたりしながら日々の生活支援に活かせるように対応しております。	推進会議は地域代表や家族、行政と消防署の出席を得ながら開催され、議題も行事報告のみならず、事故や拘束廃止委員会の討議内容も開示されており、サービス向上に結び付いている。	運営推進会議の特性上、参加と公開が不可欠と思われ、また事業所の理解促進においても、運営推進会議の議事録については行政等の関係機関のみならず、利用者家族まで公配布・公開し、更なる理解となるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への報告・連絡・相談等の中で、意見・アドバイスを頂いたりしながら、日々の支援に活かせるよう対応しております。	包括や担当部局とは顔見知りで、懇意な関係が維持されている。制度の解釈についての説明や各種の情報交換も日頃から行われており、信頼性の高い関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待廃止推進委員会を設け3か月に1度、年4回の委員会を実施し、日々の介護の中で一人ひとりが意識し対応できるよう取り組んでいます。夜間の施錠に関しては、一般家庭同様にしている。	身体拘束・虐待廃止推進会議で虐待廃止に向けた指針を作成し、介護の基本に据えている。また3ヶ月ごとに定期開催し、直近の会議で職員に徹底周知して、虐待も拘束も無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の外部研修への参加、又身体拘束・虐待廃止推進委員会時に日々の中での自己を振り返る等、自己診断を通して自己覚知を行い不適切な声かけ等を改善する等し、支援に活かせるよう対応しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	基本的考え方をもとに支援しておりますが、研修会等に参加する。学習会にて話し合うと言う所までは、時間や人手の関係で到達していないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時・改定時・解約時には、ご理解・納得して頂けるよう説明し質問等も頂くよう心掛けております。又、疑問等有る時には、随時受付し説明させて頂いております。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望が有る時には、気軽に伝えて頂けるような雰囲気作り、玄関に意見箱を設置する等対応。意見を頂き、運営に反映できるよう努めております。	毎月ひだまり通信を発行し、家族宅へ全体的な活動を報告し、また介護日誌を個人別に利用者宅に発送して好評を得ている。玄関に意見箱を設置し、また来訪時には話しやすい雰囲気、苦情や要望を聞き取っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1～2回程度 個人面談を行い要望・意見の有無の確認、出来る限り個々の意見を反映できるよう努めております。また、日々の申し送り時等に少しの時間でも相談や検討が出来るよう対応しております。	職員は正規雇用とし、身分を保証しながら、月1回のカンファレンスや毎日の申し送りで意見や提案を受けている。また年に数回面談の場を設定し、個人として話し合い、色々な意見の聴取・反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格に応じた手当、年末年始出勤者への手当の支給。退職金制度の導入。年3回の賞与制度。福利厚生として、3か月に1度の食事会等職員が意欲的に働けるよう対応しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月実施のケア会議時に内部研修を行い、可能な限り、外部研修への参加を一人ひとりの知識の向上に努めております。資格取得にに対しその機会を与え経費に関しても3年勤務にて無返済とし資格の取りやすい環境造りに努めております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組み	隣接する有料老人ホームと定期的に情報交換をし、サービス向上に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申し込み時、面接時、入居後と不安等に耳を傾け快適に過ごして頂けるよう努めております。又、それがリロケーションダメージからくる物なのかを把握できるよう、又それらに対応して行けるよう、関係構築に努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に、希望されるサービスの相談や必要に応じたサービスを提供出来るよう話合を持つ。不安を一つ一つ解消出来る限り希望に近づけるよう対応する事でより良い関係作りに努めております。毎月、ケース記録にて日々の様子の報告。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で「何が必要か」を探り、ご本人に応じた形で対応できるよう、日々の様子・状態の把握に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、行いたい事に着目し、声かけし一緒にしながら生活して居ります。役割を持つ事で、生き活きた生活が送れるよう努めております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様と利用者様、私共が可能な限り情報を共有し、より良い関係でサポート出来るよう努めております。又、月に1度 施設内での様子を記載した通信紙やケース記録にて日々の様子・過ごし方等お知らせしております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ病院等は今まで同様に支援させて頂いております。知人・家族・友人等の面会は快く迎えられるよう心掛けております。馴染みのお店など希望がありましたら、その旨の対応をさせて頂いております。	病院への行き帰りや、買い物での外出等で住み慣れた地域や見慣れた景色を楽しんでもらい、また家族の協力を得ながら墓参り、神社詣で等々の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共通の話題・利用者同士の関係性等を把握し、職員が接点となり、楽しい時間が過ごす事が出来るよう・良好な関係を築けるよう配慮・支援に努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時の医師からの説明等、家族様に要望された場合は同席させて頂くよう対応しております。他施設へ移動された場合の面会は状態に応じて対応させて頂いております。他界された場合は、葬儀への参列、家族様の相談等も必要に応じ対応できるよう努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・相談・行動からそれぞれの思いを汲み取り職員間で共有しその人らしい生活に繋がられるよう努めております。又、ケアプランに反映し希望に沿えるよう支援しております。	日々の生活を支援しながら把握した本人の意向や思いを介護職員全員で共有し、介護計画に位置づけ、毎日が本人本位の暮らしになるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族・ご本人からのお話や情報提供から知れた事、生活歴・生活環境からのアプローチにより、どのような状況下でサービス利用をされていたか等把握し、今後の生活に活かせるよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の能力に応じ対応しております。職員間で情報の共有・話し合い等 その人に合った支援を心掛けております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員による個別ケア対応の実施、日々の状態・様子など把握し、家族様への状態報告・受診時の医師への報告等を通し、ケアプランへの反映に努めております。	月に一度、毎日のモニタリングを集約し、個人別にカンファレンスを実行し、介護計画を作成している。内容は個別に特化し、介護日誌で進捗状況を把握できるよう、また病変等が発生した場合は臨機に対応し、現状に即した介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケースの充実、申し送り事項等、それらを基に個別ケアに活かすような形をとっており、ケアプランにも反映するよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の利用者様の状態変化に合わせた対応を心掛け、新聞・テレビ・研修等からの知識を取り入れながら手探りではありませんが実践できるよう努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内商店からの食材の購入・移動パン販売・文化展への出品・幼稚園児のお遊戯披露会・ボランティアによる紙芝居・読み聞かせ・太鼓披露・舞踊・歌・等地域との繋がり・交流を図れるよう努めております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望や入居前から通院されていた医療機関に通えるよう対応しております。必要に応じ、年1回施設医による健康診断の実施。又、特変事・救急時には、救急外来の受け入れ可能である総合病院への受診も視野に入れて支援しております。	かかりつけ医は家族や本人の希望を優先して受診しており、他都市の通院も多く、職員が同行して日々の様子を医療側に伝えている。また往診もお願いし、安心できる体制で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員の配置はありませんが、医療的な相談は隣接する有料老人ホームの看護師や施設医相談により適切な対応が出来るよう努めております。朝・夕の申し送り時には、状態や気付きなどの報告をし、状態把握出来るよう対応しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、施設での日々の状態等を家族様同意の元、提供させて頂いております。退院時には、現状のサマリーを頂く等状況に即した対応が出来るよう努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期においては、体制が不十分な為行えておりませんが、出来る限りの範囲での協力や医療処置が必要な場合は施設医・主治医に相談し対応し、個々に今必要な処置が出来るよう努めております。	医療的な限界があり、最終的な看取り介護は行っていないが、本人や家族の希望により、出来る範囲で事業所に対応する様取り組んでおり、最終的には、主治医と家族、事業所との話し合いで、最善の方法を模索・決定している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事対応のマニュアルを職員の休憩室に常備し、いつでも閲覧可能な状態にしております。又、消防署の指導・協力により救命講習を受け備えております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施・施設内にスプリンクラーを設置する等火災に対して備えております。洪水に関しては避難確保計画書を作成し災害時に備えております。	避難訓練は年に2回、消防署の指導により実施している。水害や洪水時には避難先に山側のお寺の同意を得ており、家族にも周知済みで、また冬季用の暖房も用意済みで、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室は1人部屋となっており、入浴時は他者と重なる事無く入浴出来るようにしております。トイレは、危険回避の意味合いから開閉式カーテンを使用。介助は近すぎず遠すぎずを心掛け節度ある対応を心掛けております。	接遇は介護の基本である事を十分に理解し、親しさと距離感を確認しながら、節度のある礼儀に徹している。トイレやお風呂にもプライバシー重視の配慮がなされ、事業所全員で人としての尊重に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、出来る限りご本人の意思を尊重し、選択肢を提示する等確認しながら対応させて頂いております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	会話・日々の様子・身体状態等、個々の思いを汲み一人ひとりのペースに合わせて支援できるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は洋服を選んで好みの物を着用されておられます。介助が必要な方は、季節感のあるものをこちらで選び確認して頂いております。離床時には、整髪・整容の声がけ、介助を行っております		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下・咀嚼状態に合わせた食事提供を行い、可能な範囲で準備やかたづけにも参加して頂いております。お誕生日・祝日等は、お好みメニュー・お祝いメニューにて対応しております。	一人ひとりの食の状態、嚥下や咀嚼、塩分摂取等々を勘案しながら食事の提供を行っている。行事食やお好みメニューも取り入れ、楽しい食卓になるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養に偏りが無いようメニューを立てるように心掛けております。水分・食事は記録し把握できるようにしております。水分に関しては、決まった時間以外にも都度つど提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアにより、口腔内を清潔に保ち感染症や誤嚥性肺炎の予防に努めております。ケアスポンジ・舌苔ブラシを使用する等一人ひとりに合わせて対応しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、日中・夜間と声かけ対応しております。夜間に関しては、状態に合わせ危険の無いよう対応しております。	排泄はトイレで行うことを基本として、個々の状況に合わせて、時間や仕草でトイレに誘導し、自然で安心できる排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品・水分・繊維質等の摂取を心掛けております。又、可能な方は 日々、歩行運動をされておりますが、促進されない場合は、施設医・主治医に確認し下剤の服薬が実際です。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を目標としておりますが、ご本人の希望・状態に合わせ支援させて頂いております。	入浴用のお湯は毎日入れており、その中で全員が週に2回以上は入浴できる様に努めている。拒否者には無理強いせず、時間と介護員に変化をつけながら、お風呂が楽しくなるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量・離床時間の確保により安眠できるよう配慮、不眠・不穏のある方には、個々のペースに合わせ水分補給する等状態に合わせて支援対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報は個人ファイルに綴りいつでも確認できるようにしております。事故防止の為、配薬時・服薬前と職員同士で確認し誤薬の無いよう支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴・現在の状態に合わせて個々ができる事を行って頂くようにしております。やりたい事・興味のある事等を把握し充実した生活が送れるよう支援しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望で散歩・買い物等の外出や天気の良い日にはお弁当を作り外で昼食をとる等、体力的に負担にならない様に支援しております。文化展への作品出品、見学と参加しております。	桜や紅葉の定期的なドライブの他に、幼稚園行事に参加したり、通院の行き帰りに遠回りをしたり、買い物に寄ったりしながら外出を楽しみ、また気軽な散歩に出掛けたりと、閉じこもらない介護に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動販売来園時には、ご自身の好きな物を選び購入しております。金銭管理の難しい方には、選んで頂き支払代行にて対応しております。洋服などを希望される方は外出し、ご自身の好みの物を購入する等可能な限り対応しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に使用できる電話の設置はありませんが、希望があれば取次し対応しております。手紙に関しても、申し出があれば代筆する等の対応しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに壁紙の張り替えを行っております。又、行事ごとに写真を掲示し皆さんの目に届くよう対応しております。壁の装飾に関しては、利用者の方々と共同作業で行うよう心掛けております。	建物はゆったりと造られ、居間も居室も広く明るい造りで、一人ひとりがゆっくりと過ごせるように工夫が凝らされている。装飾も華美を排し、利用者との作品や写真も多くみられ、職員紹介も工夫が見られ、暖かい雰囲気を感じられる事業所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	動線の確保を基調とし、皆さんがくつろげるような配置を考え車椅子の方も移動できるスペースを確保しております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた馴染の家具・小物・椅子・布団、また仏壇も持ち込み可能としております。使い慣れた物を使用する事で心地よく過ごして頂けるよう対応しております。	長年自宅で使い慣れた家具や椅子類、また、必要であれば仏壇も持ち込まれるようになっており、部屋の壁には家族写真等も貼られ、毎日こころよく過ごせるような、懐かしさのある自室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリー対応、廊下全般には手すりの設置、玄関にはイスの設置をし靴の脱ぎ履きがしやすいように対応しております。園内各所に各名称や居室には名前や目印にて個々が判りやすい様対応しております。		